

# 労働の科学

*Digest of Science of Labour*

2 0 1 9  
*November*  
Vol. 74, No. 11



特集

## 印刷事業の社会的役割と働き方

社会における印刷の歴史と文化／黒瀧曜一

持続可能な社会の実現に資する印刷産業の社会的責任とその取り組み／新井一輝・山本正己・上村護・柳井智  
製本專業者におけるレーゾン・デートル／井上 正 製版業の職場における組織改革と働き方改革がもたらしたもの／新佐絵吏  
総合的に環境配慮された印刷環境で継ぎゆく高い技術と品質／藤森英夫

「心の健康づくり計画」の策定と実施が支える笑顔と思いやりのある印刷職場づくり／園田慶一

働き方改革は経営改善のチャンス、「利他共栄」の精神で社員と進める地域と業界の活性化／木野瀬吉孝

巻頭言

出版の自由は出版流通の自由である  
清田義昭

連載

労研饅頭の社会史②

猪原千恵

# 労働の科学

2019  
November  
Vol. 74, No. 11

## 巻頭言

俯瞰（ふかん）

出版の自由は出版流通の自由である

清田 義昭 [株式会社出版ニュース社]

1

表紙：「対（つい）No.1」 深沢 軍治  
板に油材、530mm×455mm(10号F)、2018年  
表紙デザイン：大西 文子



## 印刷事業の社会的役割と働き方

社会における印刷の歴史と文化

[株式会社AiSun] 黒瀧 曜一 ..... 4

持続可能な社会の実現に資する印刷産業の社会的責任とその取り組み

[日本印刷産業連合会] 新井 一輝, 山本 正己, 上村 護, 柳井 智 ..... 10

製本專業者におけるレーゾン・デートル

[和光堂株式会社] 井上 正 ..... 16

製版業の職場における  
組織改革と働き方改革がもたらしたもの

[株式会社浅野製版所] 新佐 絵吏 ..... 21

総合的に環境配慮された印刷環境で継ぎゆく高い技術と品質

[亜細亜印刷株式会社] 藤森 英夫 ..... 26

「心の健康づくり計画」の策定と実施が支える  
笑顔と思いやりのある印刷職場づくり

[西日本ビジネス印刷株式会社] 園田 慶一 ..... 30

働き方改革は経営改善のチャンス,  
「利他共栄」の精神で社員と進める地域と業界の活性化

[木野瀬印刷株式会社] 木野瀬 吉孝 ..... 34

**Graphic**

ディーセント・ワークを目指す職場 11 [見る・活動] (106)

株式会社ウエスト神姫 ..... 口絵

**Series**

労研饅頭の社会史 (2)

労研饅頭の流行 ..... 猪原 千恵 ..... 40

凡夫の安全衛生記 (35)

「踏み出してしまった」健康管理体制を変える ..... 福成 雄三 ..... 52

労研アーカイブを読む (47)

戦後日本の産業復興をサポートした  
産業労働のエネルギー代謝率の測定 ..... 岸田 孝弥 ..... 54

**Column**

大原記念労働科学研究所セミナー再録 2

働き方改革と人事管理 ..... 今野 浩一郎 ..... 46

第14回 労研・産業安全保健エキスパートネットワークの会

楽しく学んで身につく異業種交流会 ..... 山本 保則 ..... 60

Talk to Talk

言わずもがな ..... 肝付 邦憲 ..... 62

次号予定・編集雑記 ..... 64



## 出版の自由は出版流通の自由である

清田 義昭

私が編集していた雑誌『出版ニュース』（出版ニュース社・月3回発行）はことし3月下旬号をもって休刊（事実上の廃刊）した。同時に刊行していた『出版年鑑』も廃刊ということになった。出版ニュース社はこの10月で創業70周年になったが、近く清算して廃業することになった。

出版界が60年代から急成長を遂げ、1996年をピークに売上げが減少していった。80年代のレベルにまで落ちてしまった現在の売上げをみると、さまざまなことが記憶にのぼってくることは確かである。

1973年のオイルショックでも二桁成長。バブルが崩壊した1990年でも右肩上りで伸び、出版界は「不況に強い」事業と言われた。実際、新刊点数も雑誌の創刊も多く、活況があったことは確かだ。しかし、96年を境に書籍の返品率が高くなり、好調な雑誌も返品率が増加していった。とりわけ業界は雑誌中心に依存してきた体質が大きく変わり、出版界は構造的な不況業種になった。

それは何かである。私は1995年秋に発売されたOS・ウィンドウズ95であると考えている。それによって、雑誌の売上げが影響を受ける。当時のゲーム関連の雑誌をはじめ、ハウツー的なもの、各種情報誌がネットに変わり、携帯電話の急速な普及は、パソコンの急伸とともに雑誌・書籍の売上に打撃を与えた。その後、コミック雑誌が電子化され、一部の文字ものも電子書籍化の道を歩んでい

る。また、インターネット情報の拡大はテレビ・新聞へも影響が及んでいることはいままでもない。

出版業界は雑誌の流通上の取引関係や配送システムに依存することで成り立っている。雑誌不振が、全国津々浦々にある書店を転廃業に導き、コンビニ売上げを激減させているのが現実である。こうした販売拠点の減少が書籍の販売にもつながり、書店の疲弊を生んでいるわけだ。にもかかわらず、取次は書店やコンビニには少ない部数でも配送しなければならぬために、過重な運賃輸送費を強いられ、四苦八苦している。

この状況に加えて、書籍販売に関しては2000年に参入してきたアマゾン・ジャパンの読者に対してはより早く、無料で届けるシステムが拡大している。まさに新たな成功したビジネスモデルの出現は、読者と本との出会いの場を広げている。つまり、書店離れであり、書店の存在を危うくしている。この傾向は加速していくと思われる。

ところで、インターネット、電子書籍の普及は今後、加速していくことは確かだと思う。しかし、一方で紙の情報印刷物がどうなるかである。私は、紙の特性である「直接読める」という点でいえば、まだまだ存在意義はあると思う。それは読むことの身体性は読む行為の基本だと思ふからである。ページをめくり、ページをさかのぼり、付箋を貼る、線を引くなどである。何より、ここまで



きよた よしあき  
株式会社出版ニュース社代表  
主な著作

・『変貌する読書空間』（共著）学陽書房、1982年  
・『図説日本のマスメディア』（共著）日本放送出版協会、2005年  
・『新現場からみた出版学』（共著）学文社、2004年

読んだという達成感なども紙の本ならではの点。

つまり、紙の物神性であり、紙が築いてきた文化の蓄積と継承が、著者と読者で構成される出版物文化である。それは出版者の存在である。出版物の多様性で民主主義の担保にもなる。これは出版物文化とともに共存すると思う。そのことが出版物の存在理由でもある。したがって、新聞ではできない内容、電子的情報である放送やインターネットではできない時間や歴史を踏まえた、より深く正確なものが出版に求められる。

その出版を実現するのが印刷業で、協業関係にあり、運命共同体でもある。今、両者が何をすべきかを話し合う機会や場が必要ではないか。

最後に、出版の自由は出版流通の自由であることを意識することだ。